

九州厚生局長 殿

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院
熊 本 一

鹿児島大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 22 年度
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	150人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照 (様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照 (様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	192人	226人	380.3人	看護補助者	30人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	103人	42人	141.6人	理学療法士	9人	臨床検査技師	43人
薬 剤 師	32人	5人	37人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	2人	その他	7人
助 産 師	17人	1人	17.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	559人	40人	592.4人	臨床工学技士	11人	医療社会事業従事者	0人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	15人
歯科衛生士	10人	4人	14人	歯 科 技 工 士	5人	事 務 職 員	117人
管理栄養士	4人	1人	5人	診療放射線技師	32人	そ の 他 の 職 員	63人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	523.2 人	28.1 人	551.3 人
1日当たり平均外来患者数	846.6 人	417.1 人	1263.7 人
1日当たり平均調剤数	699.1 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	60人	・膿疱性乾癬	14人
・多発性硬化症	34人	・広範脊柱管狭窄症	10人
・重症筋無力症	71人	・原発性胆汁性肝硬変	16人
・全身性エリテマトーデス	216人	・重症急性膵炎	4人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	51人
・再生不良性貧血	37人	・混合性結合組織病	28人
・サルコイドーシス	68人	・原発性免疫不全症候群	11人
・筋萎縮性側索硬化症	13人	・特発性間質性肺炎	18人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	153人	・網膜色素変性症	47人
・特発性血小板減少性紫斑病	46人	・プリオン病	3人
・結節性動脈周囲炎	21人	・肺動脈性肺高血圧症	13人
・潰瘍性大腸炎	45人	・神経線維腫症	29人
・大動脈炎症候群	16人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	13人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	4人
・天疱瘡	11人	・慢性血栓性肺高血圧症	0人
・脊髄小脳変性症	42人	・ライソゾーム病	7人
・クローン病	30人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	5人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	5人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	34人	・球脊髄性筋萎縮症	2人
・アミロイドーシス	3人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	6人
・後縦靭帯骨化症	56人	・肥大型心筋症	4人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	22人	・ミトコンドリア病	4人
・ウェゲナー肉芽腫症	10人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	2人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	35人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	18人	・黄色靭帯骨化症	1人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	110人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	140回
部 検 の 状 況	部検症例数 14例 / 部検率 10.44%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元	
1	動脈硬化症疾患の危険因子の性差と予防に関するコホート研究	鄭忠和 (主任 国立循環器病センター内藤博昭)	第一内科	1,000	補 委	厚生労働省
2	特発性心筋症に関する調査研究	鄭忠和 (主任 国立循環器病センター北風政史)	第一内科	1,100	補 委	厚生労働省
3	女性外来と千葉県大規模コホート調査を基盤とした性差を考慮した生活習慣病対策の研究	嘉川亜希子 (主任 千葉県生成研究所 天野恵子)	第一内科	1,000	補 委	厚生労働省
4	治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学 (消化器内科)	60,000	補 委	厚生労働省
5	難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	(分担) 坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学 (消化器内科)	1,000	補 委	厚生労働省
6	IgG4 関連全身硬化性疾患の診断法の確立と治療法の開発に関する研究	(分担) 坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学 (消化器内科)	1,000	補 委	厚生労働省
7	(林班) ウイルス性肝炎からの発がん及び肝がん再発の抑制に関する研究	(分担) 坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学 (消化器内科)	2,000	補 委	厚生労働省
8	シュガーチップと糖鎖固定化金ナノ粒子を用いたウイルス性疾患の超早期検査・診断法の開発	(分担) 坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学 (消化器内科)	1,000	補 委	厚生労働省
9	免疫抑制薬、抗悪性腫瘍薬によるB型肝炎ウイルス再活性化の実態解明と対策法の確立	(分担) 井戸章雄	消化器疾患・生活習慣病学 (消化器内科)	1,000	補 委	厚生労働省
10	ウイルス性肝炎における最新の治療方法の標準化を目指す研究	(分担) 桶谷 眞	消化器疾患・生活習慣病学 (消化器内科)	2,500	補 委	厚生労働省
11	経口感染する肝炎ウイルス (A型、E型) の感染防止、遺伝的多様性、及び治療に関する研究	(分担) 桶谷 眞	消化器疾患・生活習慣病学 (消化器内科)	1,000	補 委	厚生労働省
12	ウイルス性肝炎に対する分子標的治療創薬に関する研究	(分担) 宇都浩文	消化器疾患・生活習慣病学 (消化器内科)	2,500	補 委	厚生労働省
13	非アルコール性脂肪肝疾患の病態解明と診断法、治療法の開発に関する研究	(分担) 坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学 (消化器内科)	1,500	補 委	厚生労働省
14	わが国における飲酒の実態把握およびアルコールに関連する生活習慣病とその対策に関する総合的研究	(分担) 宇都浩文	消化器疾患・生活習慣病学 (消化器内科)	800	補 委	厚生労働省
15	肝細胞増殖因子を用いたiPS細胞の肝細胞分化誘導	坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学 (消化器内科)	900	補 委	文部科学省
16	遺伝子改変動物を用いた炎症性肝発癌におけるオステオアクチビンの役割の解析	井戸章雄	消化器疾患・生活習慣病学 (消化器内科)	1,900	補 委	文部科学省
17	プロテオミクスを用いた非アルコール性脂肪肝炎の診断マーカーの探索と検証	宇都浩文	消化器疾患・生活習慣病学 (消化器内科)	600	補 委	文部科学省
18	プロテオミクスにより同定されたヒト好中球ペプチドの腸管炎症への影響の検討	上村修司	消化器疾患・生活習慣病学 (消化器内科)	900	補 委	文部科学省
19	HGFによる肝細胞分化誘導メカニズムの解明	高見陽一郎	消化器疾患・生活習慣病学 (消化器内科)	800	補 委	文部科学省
20	前臨床ミニプタ同種腎移植モデルを用いたHGFによる免疫寛容誘導および機序の解明	屋万栄	消化器疾患・生活習慣病学 (消化器内科)	1,300	補 委	文部科学省

(様式第11)

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元	
21	発症危険度判断によるALT滑翔リスク診断システムの開発	坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	4,000	補 委	宮崎県産業支援財団
22	脂肪肝の新しい診断と治療法の開発	坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	1,000	補 委	国立大学法人 宮崎大学
23	生活習慣病に関する研究	坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	1,538	補 委	国民健康保険 高原病院
24	一本鎖DNA修復異常症SCAN1の神経変性機構の解明	高嶋博	神経内科	1,100	補 委	日本学術振興会
25	6型コラーゲン関連筋疾患の治療法開発に関する研究	樋口逸郎	神経内科	1,100	補 委	厚生労働省
26	本邦オリジナルの遺伝性神経3疾患の分子生物学的研究	大窪隆一	神経内科	1,500	補 委	日本学術振興会
27	ニューロパチーの病態解明に関する研究	高嶋博	神経内科	14,000	補 委	厚生労働省
28	運動失調症に関する調査研究	高嶋博	神経内科	1,500	補 委	厚生労働省
29	重症度別治療指針作成に資すHAMの新規バイオマーカー同定と病因細胞を標的とする新規治療法の開発	高嶋博	神経内科	1,000	補 委	厚生労働省
30	スモンに関する調査研究	高嶋博	神経内科	500	補 委	厚生労働省
31	封入体筋炎(IBM)の臨床病理学的調査および診断基準の精度向上に関する研究	樋口逸郎	神経内科	1,200	補 委	厚生労働省
32	ベスレムミオパチーとその類縁疾患の実態調査	樋口逸郎	神経内科	3,000	補 委	厚生労働省
33	免疫性神経疾患に関する調査研究	渡邊修	神経内科	1,200	補 委	厚生労働省
34	急性脳炎のグルタミン酸受容体自己免疫病態の解明から新たな治療法確立に向けた研究	渡邊修	神経内科	1,000	補 委	厚生労働省
35	糖尿病多発神経障害の臨床病期分類の確立と病期に基づいた治療ガイドラインの作成	出口尚寿	糖尿病・内分泌内科	600	補 委	厚生労働省
36	難治性ニューロパチーの診断技術と治療法の開発に関する研究	高嶋博	神経内科	1,400	補 委	国立精神・神経センター
37	筋ジストロフィーおよびその関連疾患の分子病態解明、診断法確立と薬物治療の開発に関する研究	樋口逸郎	神経内科	1,000	補 委	国立精神・神経センター
38	新たな促進法と機能的振動刺激法を用いた革新的片麻痺歩行訓練法の確立と効果の検討	川平和美	リハビリテーション科	9,620	補 委	日本学術振興会
39	新しい多種感覚誘導性注意改善システムの開発と臨床応用	下堂蘭恵	リハビリテーション科	2,990	補 委	日本学術振興会
40	脳卒中患者の感覚障害に対する末梢神経刺激、中枢神経刺激併用の集中的治療	衛藤誠二	リハビリテーション科	910	補 委	日本学術振興会
41	筋力増強・廃用性筋力低下における筋代謝マーカーの分子生物学的検討と臨床応用	池田聡	リハビリテーション科	4,160	補 委	日本学術振興会

(様式第11)

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
42	温度受容体の神経因性膀胱治療への応用に向けた基礎的研究	吉田輝	リハビリテーション科	1,560	補 日本学術振興会
43	筋疲労と運動学習が脳の運動野および感覚野の可塑的变化に及ぼす影響	丸山敦夫 川平和美	リハビリテーション科	100	委 補 日本学術振興会
44	筋疲労と運動学習が脳の運動野および感覚野の可塑的变化に及ぼす影響	丸山敦夫 衛藤誠二	リハビリテーション科	100	委 補 日本学術振興会
45	摂食・嚥下リハビリテーションにおける新しい訓練・評価システムの開発	吉野 賢一 下堂蘭恵	リハビリテーション科	150	委 補 日本学術振興会
46	舌の高次感覚・運動障害に対する新しい評価・治療法の開発	河岸重則 下堂蘭恵	リハビリテーション科	50	委 補 日本学術振興会
47	精神疾患と有棘赤血球舞踏病病因遺伝子のコピー数多型解析	中村雅之	精神機能病学 (神経科精神科)	650	委 補 文部科学省
48	舞踏病原因遺伝子VPS13Aによる神経細胞死制御機構	佐野輝	精神機能病学 (神経科精神科)	900	委 補 文部科学省
49	精神障害における神経有棘赤血球症遺伝子群の関わりに関する総合的研究	佐野輝	精神機能病学 (神経科精神科)	2,340	委 補 文部科学省
50	有棘赤血球舞踏病の診断法の確立および分子病態の解明に関する研究	佐野輝	精神機能病学 (神経科精神科)	1,000	委 補 財団法人 先進医薬研究振興財団
51	炎症と細胞傷害の悪循環に関与する核内蛋白・HMGB1による新しい川崎病重症度評価	野村裕一	小児科	900	委 補 日本学術振興会
52	新興病原菌としての腸管凝集性大腸菌の分子疫学研究とイムノクロマト迅速診断法の開発	西順一郎	小児科	1,000	委 補 日本学術振興会
53	ヒト造血幹細胞の加齢に関する研究	河野嘉文	小児科	1,300	委 補 日本学術振興会
54	ヒブワクチン導入前後のインフルエンザ菌莢膜遺伝子重複と抗体親和力の研究	(分担) 西順一郎	小児科	300	委 補 日本学術振興会
55	再生不良性貧血におけるHIF-1 α を介したVEGFの調節機構の解明	児玉祐一	小児科	1,200	委 補 日本学術振興会
56	インターロイキン-8を介した末梢血幹細胞動員の分子機序の解明と臨床応用	岡本康裕	小児科	1,900	委 補 日本学術振興会
57	再発等の難治性造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を用いた効果的治療法確立に関する研究	河野嘉文	小児科	1,000	委 補 厚生労働省
58	重症川崎病患者に対する免疫グロブリン・ステロイド初期併用投与の効果を検討する前方視的無作為化比較試験	(分担) 野村裕一	小児科	1,500	委 補 厚生労働省
59	シュガーチップと糖鎖固定化金ナノ粒子を用いたウイルス性疾患の超早期検査・診断法の開発	西順一郎	小児科	1,000	委 補 厚生労働省
60	小児期のリウマチ・膠原病の難治性病態の診断と知慮に関する研究	(分担) 武井修治	小児科	500	委 補 厚生労働省
61	TNF受容体関連周期性症候群 (TRAPS) の病態の解明と診断基準作成に関する研究	(分担) 武井修治	小児科	1,200	委 補 厚生労働省
62	NOD2異変を基盤とするブラウ症候群/若年性サルコイドーシスに対する診療基盤の開発	(分担) 武井修治	小児科	2,00	委 補 厚生労働省

(様式第11)

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
63	消化器癌のリンパ節微小転移の臨床的意義の解明	夏越祥次	第一外科	4,700	補 委 日本学術振興会
64	免疫機構を応用した癌リンパ節微小転移の制御に関する基礎的・臨床的研究	石神純也	第一外科	500	補 委 日本学術振興会
65	整容性を考慮した乳房温存時における遊離真皮脂肪片移植の生着機序の解明と臨床応用	喜島祐子	第一外科	700	補 委 日本学術振興会
66	微小癌細胞のNOGマウスによる生着モデルと抗癌剤感受性試験への手技の確立	上之園芳一	第一外科	1,800	補 委 日本学術振興会
67	消化器癌のリンパ行性転移を促進する腫瘍微小環境の解明とその制御	歳原弘	第一外科	1,100	補 委 日本学術振興会
68	生検標本を用いた食道扁平上皮癌のリンパ節転移予測に関する研究	内門泰斗	第一外科	800	補 委 日本学術振興会
69	消化器癌のリンパ管新生に関連する微小環境の分子生物学的解析	松本正隆	第一外科	1,400	補 委 日本学術振興会
70	消化器癌の癌免疫機構における免疫補助刺激分子の臨床的意義と新たな臨床応用への展開	有上貴明	第一外科	1,100	補 委 日本学術振興会
71	消化器外科手術における合成吸収糸使用の手術部位感染抑制効果に関する多施設共同並行	(分担) 夏越祥次	第一外科	100	補 委 厚生労働省
72	高精度の分子遺伝学的評価による食道癌治療成績向上のための包括的研究	(分担) 夏越祥次	第一外科	1,000	補 委 日本学術振興会
73	大腸癌におけるオキサリプラチンの末梢神経障害に対する漢方薬：牛車腎気丸の有用性に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較検証試験（臨床第Ⅲ相試験）	(分担) 夏越祥次	第一外科	200	補 委 厚生労働省
74	糖尿病患者における血管イベント発症に関する後ろ向きコホートに関する研究	久容輔	心臓血管外科	60,100	補 委 厚生労働省
75	下垂体線種における腫瘍幹細胞の実態とその機能および分化に関する研究	有田和徳	脳神経外科	1,100	補 委 日本学術振興会
76	間脳下垂体機能障害に関する調査研究（大磯班）	有田和徳	脳神経外科	2,000	補 委 厚生労働省
77	難治性内分泌腫瘍の診断と治療に関する研究（島津班）	有田和徳	脳神経外科	1,500	補 委 厚生労働省
78	悪性グリオーマにおけるWntシグナル活性化の検討と診断・治療への応用	平野宏文	脳神経外科	900	補 委 日本学術振興会
79	新規骨特異的チャネル分子パネキシン3の骨形成における機能解析	前田真吾	整形外科	4,400	補 委 日本学術振興会
80	ポリコーム蛋白の機能とターゲット遺伝子解析による関節リウマチ分子標的治療法開発	小宮節郎	整形外科	900	補 委 日本学術振興会
81	変形関節症の病態解明-GADD45ベータトランスジェニックマウスの解析	井尻幸成	整形外科	500	補 委 日本学術振興会

(様式第11)

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元	
82	骨軟部肉腫幹細胞をターゲットとした分子標的治療法開発研究	瀬戸口啓夫	整形外科	700	補	日本学術振興会
83	骨軟部肉腫に対する新規遺伝子治療法ー腫瘍内ウイルス拡散をターゲットとして	永野聡	整形外科	800	委補	日本学術振興会
84	超音波バブルリボゾームを用いた新規抗癌剤デリバリーシステムによる肉腫標的治療	横内雅博	整形外科	2,500	委補	日本学術振興会
85	Smoothedの機能とシグナルクロストーク解明による骨肉腫分子標的治療開発	山元拓哉	整形外科	2,400	委補	日本学術振興会
86	CD147/Basiginを標的とした新たな皮膚癌治療戦略の構築	金蔵拓郎	皮膚科	3,810	委補	日本学術振興会
87	トランスポーターと小胞輸送による共役的抗がん剤輸送機構の解析	金蔵拓郎	皮膚科	3,300	委補	日本学術振興会
88	皮膚T細胞リンパ腫の生物学的予後因子に基づく予後予測モデルの構築	河井一浩	皮膚科	4,900	委補	日本学術振興会
89	マイクロRNA発現制御による尿路上皮癌の新規治療の開発	中川昌之	泌尿器科	2,470	委補	日本学術振興会
90	尿中メチル化DNA測定による新しい前立腺癌診断キットの開発	榎田英樹	泌尿器科	130	委補	日本学術振興会
91	microRNA発現プロファイルに基づく膀胱癌の新規治療の開発	川元健	泌尿器科	390	委補	日本学術振興会
92	高悪性度筋層非浸潤癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除後の治療方針の確立に関する研究	(分担) 中川昌之	泌尿器科	250	委補	厚生労働省
93	早期前立腺がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立に関する研究	(分担) 中川昌之	泌尿器科	200	委補	厚生労働省
94	硝子体の研究：環境解析とその制御およびそれを利用した治療開発	坂本泰二	眼科	3,770	委補	日本学術振興会
95	超音波とバブルリボゾームを使った薬物送達法の開発～眼球用超音波照射装置の開発～	坂本泰二	眼科	800	委補	日本学術振興会
96	リボゾームを併用した前眼部への遺伝子導入・薬物送達法の評価法の開発	内野英輔	眼科	1,820	委補	文部科学省
97	Transwellを利用した極性をもつ網膜色素上皮細胞の培養法の確立	園田祥三	眼科	2,600	委補	文部科学省
98	網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	(分担) 坂本泰二	眼科	3,000	委補	厚生労働省
99	未熟児網膜症の新規手術法開発後の治療プロトコルの標準化	(分担) 坂本泰二	眼科	1,500	委補	厚生労働省
100	内臓脂肪と皮下脂肪由来の液性因子の骨塩量に及ぼす非荷重効果の差に関する研究	堂地勉	生殖病態生理学 産婦人科	1,690	委補	日本学術振興会
101	プロボフォルによるアディポネクチン分泌低下の機序とインスリン抵抗性への関与	上村裕一	侵襲制御学分野・麻酔全身管理センター (麻酔科)	1,820	委補	日本学術振興会

(様式第11)

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
102	慢性神経因性疼痛におけるPPARgammaシグナルの役割	長谷川麻衣子	侵襲制御学分野・麻酔全身管理センター(麻酔科)	1,170	補 委 日本学術振興会
103	難治性神経代謝疾患に対するトランスレーショナルリサーチ	乾明夫	心身医療科	2,200	補 委 日本学術振興会
104	心身のストレス予防効果：ストレスケアドックの提案	中原敏博	心身医療科	1,000	補 委 日本学術振興会
105	適正体重維持とストレス応対一脳腸相関、脳脂相関、脂腸相関、三軸からのアプローチ	浅川明弘	心身医療科	900	補 委 日本学術振興会
106	中枢および内臓への実験的刺激がブラキニズムの発現に及ぼす影響の病態生理学的探索	乾明夫	心身医療科	100	補 委 日本学術振興会
107	霊長類を用いた食及び情動行動に関する研究	乾明夫	心身医療科	140	補 委 日本学術振興会
108	消化器疾患の摂食異常における摂食調節ペプチドの意義	乾明夫	心身医療科	100	補 委 日本学術振興会
109	消化器疾患の摂食異常における摂食調節ペプチドの意義	浅川明弘	心身医療科	100	補 委 日本学術振興会
110	がん治療の副作用軽減ならびにがん患者のQOL向上のための漢方薬の臨床対応とその作用機構の解明	乾明夫	心身医療科	3,000	補 委 厚生労働省
111	シトリン欠損症の実態調査と診断方法および治療法の開発	浅川明弘	心身医療科	2,000	補 委 厚生労働省
112	頭頸部癌治療による口腔粘膜障害低減を目指した内因性酸化ストレス抑制療法の確立	馬嶋秀行	顎顔面放射線学	1,430	補 委 日本学術振興会
113	『イノベーション創出基礎的研究推進事業』 筋肉老化を防ぐ抗ユビキチン化ペプチドおよびフラボノイドの研究一発酵法による高度機能化技術一	馬嶋秀行	顎顔面放射線学	13,000	補 委 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究 機構 生物系特定産業技術研究 支援センター
114	クリプトビオシスとリンクした放射線耐性機構の解明研究 一放射線耐性に対するミトコンドリアの役割解明研究	馬嶋秀行	顎顔面放射線学	12,000	補 委 独立行政法人 農業生物資源研究所
115	ピンホールコロメータを応用した微小転移リンパ節の分子イメージングシステムの開発	佐藤強志	顎顔面放射線学	650	補 委 日本学術振興会
116	エストロゲン依存性疾患の活性酸素種産生に対するエストロゲンレセプター量の役割	末永重明	顎顔面放射線科	1,950	補 委 日本学術振興会
117	核医学における放射性薬品輸送蛋白の腫瘍マーカーとしての可能性の検討	川畑義裕	顎顔面放射線科	650	補 委 日本学術振興会
118	気管チューブの位置決定における呼吸音変化の信頼性に関する研究	梶山 加綱	歯科麻酔全身管理学	1,820	補 委 日本学術振興会
119	スタチンによる手術後認知機能低下の予防に関する基礎的研究	糺谷 淳	歯科麻酔全身管理学	700	補 委 日本学術振興会
120	過剰歯由来iPS細胞によるバイオリサイクル研究システムの開発	齊藤 陽子	歯科麻酔科	1,560	補 委 日本学術振興会

(様式第11)

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元	
					補	委
121	睡眠時の口腔咽頭食道内の酸のクリアランスと酸関連上部消化器疾患に対する咬合の影響	宮脇正一	矯正歯科	4,420	補	日本学術振興会
122	胃の蠕動機能が睡眠時ブラキシズムの発現に及ぼす影響の解明	宮脇正一	矯正歯科	1,600	補	日本学術振興会
123	食道内への胆汁逆流が睡眠時ブラキシズムに及ぼす影響を明らかにする研究	大牟禮治人	矯正歯科	1,040	補	日本学術振興会
124	メカニカルストレス下の歯周病原因子による歯根膜線維芽細胞のシグナル伝達機構の解明	八木孝和	矯正歯科	1,560	補	日本学術振興会
125	MyD88ノックアウトマウスを用いた矯正学的歯の移動における炎症様反応機構の解明	前田綾	矯正歯科	1,430	補	日本学術振興会
126	小児の睡眠障害、問題行動、胃食道酸逆流および顎口腔機能異常の関連性の解明	坂口勝義	矯正歯科	1,430	補	日本学術振興会
127	骨リモデリングに関わる骨芽細胞の増殖・分化・機能活性におけるMsx2の役割	山本芳丈	矯正歯科	1,300	補	日本学術振興会
128	胃食道酸逆流モデルラットにおけるブラキシズム様運動を誘発するメカニズムの解明	上村裕希	矯正歯科	910	補	日本学術振興会
129	流体シミュレーション技法による3次元気管腔気道形態の通気機能と顎咬合状態の関連評価	山崎要一	小児歯科	9,750	補	日本学術振興会
130	流体シミュレーションによる小児OSASの通気障害部位の特定と治療予測モデルの構築	岩崎智憲	小児歯科	3,120	補	日本学術振興会
131	ジルコニアナノ界面制御型接着システムの創製	佐藤秀夫	小児歯科	1,950	補	文部科学省
132	繊維芽細胞増殖因子の発現を介した血小板由来増殖因子による唾液腺形態形成の制御	山本晋也	小児歯科	1,560	補	文部科学省
133	上気道流体シミュレーションによる小児OSASの新しい診断法と歯科の対応法への展開	深水篤	小児歯科	2,730	補	文部科学省
134	口唇口蓋裂児における哺乳床の知られざる効果を探る	徳富順子	小児歯科	2,470	補	文部科学省
135	ジルコニアインプラントの軟組織における生体適合性評価と効果的除染法の確立	武内博信	歯周病科	1,800	補	文部科学省
136	歯周病が早産・低体重児出産に与える影響に関する包括的研究	長谷川梢	歯周病科	1,820	補	文部科学省
137	2相性作用型再生移植材と細胞移植によるインプラント周囲炎治療法の確立	松山孝司	歯周病科	469	補	文部科学省
138	内因性カンナビノイドを介する歯周病と動脈硬化性疾患の関連性	中島結実子	歯周病科	900	補	文部科学省
139	細胞成長因子とTCP基材の積層応用によるバイオミメティック歯周組織再生療法の開発	白方良典	歯周病科	2,100	補	文部科学省
140	生体活性化表面改質法によるジルコニアインプラントの開発と生体適合性評価	山下大輔	歯周病科	1,200	補	文部科学省
141	TNFファミリーの制御を基盤とした新規歯周病治療薬の開発とメカニズムの解明	町頭三保	歯周病科	1,170	補	文部科学省

(様式第11)

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
142	研究課題名：ジルコニア表面の生体活性化処理法の開発と歯科インプラントへの応用	宮本元治	歯周病科	5,600	補 委 文部科学省
143	iPS細胞を用いた歯周組織再生療法に関する総合的研究	野口和行	歯周病科	4,600	補 委 文部科学省
144	iPS細胞の歯周組織幹細胞への分化誘導機構の解明ー幹細胞ニッチからのアプローチ	迫田賢二	歯周病科	1,700	補 委 文部科学省
145	機能性に優れたウレタン系軟性裏装材の開発と臨床応用に関する研究	門川明彦	冠・ブリッジ科	650	補 委 日本学術振興会
146	無菌顎者の義歯装着による嚥下時の呼吸パターン	長岡英一	義歯補綴科	2,600	補 委 日本学術振興会
147	顔貌の審美性に配慮した無菌顎インプラント補綴のためのCAD/CAMシステムの開発	鎌下祐次	義歯補綴科	1,170	補 委 日本学術振興会
148	メタルフリーデンチャーの開発	水流和徳	義歯補綴科	3,120	補 委 日本学術振興会
149	口腔癌における膜型ムチン発現の臨床病理学的意義の解明と診断への応用	杉原一正	顎顔面疾患制御学	14,950	補 委 日本学術振興会
150	口腔癌におけるMUC1遺伝子スプライシングバリエーションの発現とその意義	浜田倫史	口腔顎顔面センター	1,040	補 委 日本学術振興会
151	口腔前癌病変における解糖系代謝活性とその意義	宮脇昭彦	口腔顎顔面外科	1,170	補 委 日本学術振興会
152	口蓋裂術後の口蓋化構音病態解明に関する空気力学的研究	緒方祐子	口腔顎顔面外科	2,210	補 委 日本学術振興会
153	Notchシグナルを標的とした新規口腔扁平上皮癌治療に関する研究	比地岡浩志	口腔顎顔面外科	1,820	補 委 日本学術振興会
154	歯原性上皮細胞の感染防御メカニズム解明に関する研究	石畑清秀	口腔顎顔面外科	3,640	補 委 日本学術振興会
155	鼻咽腔閉鎖不全の診断の根拠となる客観的開鼻声検査基準値の設定	五味暁憲	口腔顎顔面外科	1,040	補 委 日本学術振興会
156	舌運動圧を用いた構音時舌運動解析の試みと口蓋裂異常構音識別への応用	平原成浩	口腔顎顔面外科	3,900	補 委 日本学術振興会
157	摂食・嚥下障害に対する顎口腔機能評価および訓練法の標準化	中村康典	口腔顎顔面外科	650	補 委 日本学術振興会
158	医薬品副作用シグナル検知システムへのテキストマイニング技術の応用に関する研究	村永文学	医療情報部	780	補 委 日本学術振興会
159	指示システム化による医療安全と診療記録の質保証のための問題解決的アプローチ	宇都由美子	医療情報部	1,200	補 委 日本学術振興会
160	DPCに対応した日本版Nursing Minimum Data Setの開発	宇都由美子	医療情報部	150	補 委 日本学術振興会
161	抗癌剤で誘導されるヴォールトの発現亢進機序と抗癌剤耐性機構の解明	山田勝士	薬剤部	1,300	補 委 日本学術振興会
162	難治性てんかんに関わるコンタクトン関連蛋白質の分子間相互作用の解析	武田泰生	薬剤部	1,430	補 委 日本学術振興会

(様式第11)

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元	
163	がん分子標的薬エルロチニブの薬物 吸収制御因子の解析と吸収改善に関 する研究	牛山美奈	薬剤部	630	補 委	日本学術振興会
164	抗がん剤によるHspの細胞外放出と がん免疫の関連についての検討	大庭真理子	薬剤部	560	補 委	日本学術振興会
165	PK-PD理論に基づいたMRSA感染症治 療薬の投与方法の確立	金澤直子	薬剤部	570	補 委	日本学術振興会
166	健康寿命の延伸を目指した壺づくり 黒酢の応用に関する遺伝子研究	柴山良彦	薬剤部	570	補 委	日本学術振興会
167	成人教育理論に基づく処方監査・疑 義照会についての病院実習プログラ ムの構築	柴田由香里	薬剤部	560	補 委	日本学術振興会
168	B細胞特異的VEGF過剰発現マウスの 解析から帰納される神経免疫システ ムの発牛構築	橋口照人	検査部	6,760	補 委	日本学術振興会
169	HMGB1の生体内分子修飾による機能 変化・病態発現とその制御	(分担) 橋口照人	検査部	3,000	補 委	日本学術振興会
170	炎症性の生理活性をもつ“新規ア ディポサイトカインとしてのHMGB1” の提唱	清水利昭	検査部	1,500	補 委	日本学術振興会
171	近赤外時間分解分光法を用いた周 術期脳障害モニタリング法の開発	垣花泰之	集中治療部	4,030	補 委	日本学術振興会
172	平成22年度HIV感染者等保健福祉相 談事業	古川良尚	輸血部	1,000	補 委	エイズ予防財団

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	Circ J 2010; 74: 617-621	Waon therapy for cardiovascular disease: innovative therapy for the 21st century.	Miyata M	第一内科
2	Advance in Clinical Chemistry 2010; 52: 43-78	Cardiotrophin-1 in cardiovascular regulation	Jougasaki M	第一内科
3	J Cardiol 2010; 55(2):274-282	Left atrium volume index and pathological features of left atrial appendage as a predictor of failure in postoperative sinus conversion.	Kataoka T	第一内科
4	Endocr J 2010; 30; 57: 639-644	Concordant and discordant adrenocorticotropin (ACTH) responses induced by growth hormone-releasing peptide-2 (GHRP-2), corticotropin-releasing hormone (CRH) and insulin-induced hypoglycemia in patients with hypothalamic-pituitary disorders: evidence for	Kimura T	第一内科
5	Atherosclerosis 2010; 208: 97-103	Tacrolimus-eluting stent inhibits neointimal hyperplasia via calcineurin/NFAT signaling in porcine coronary artery model.	Hamada N	第一内科
6	Heart Vessels 2010; 25: 113-120	Enjoying hobbies is related to desirable cardiovascular effects	Saijara K	第一内科
7	J Cardiol 2010; 56: 361-366	Waon therapy mobilizes CD34+ cells and improves peripheral arterial disease	Shinsato T	第一内科
8	Int J Cardiol 2010; 141: 44-48.	Relationship between hyperglycemia and coronary vascular resistance in non-diabetic patients	Ichiki H	第一内科
9	J Thorac Cardiovasc Surg 2010 Sep; 140(3): 617-623	Functional mitral stenosis after surgical annuloplasty for ischemic mitral regurgitation: importance of subvalvular tethering in the mechanism and dynamic deterioration during	Kubota K	第一内科
10	Atherosclerosis 2010; 209: 248-254. (1, 2: equally contributed)	High expression level of Toll-like receptor 2 on monocytes is an important risk factor for arteriosclerotic disease	Kuwahata S	第一内科
11	J Atheroscler Thromb 2010; 17: 259-269	Effect of uric acid on coronary microvascular endothelial function in women: association with eGFR and ADMA.	Kuwatata S	第一内科
12	Hypertens Res 2010; 33: 1167-1173	Left ventricular global systolic dysfunction has a significant role in the development of diastolic heart failure in patients with systemic	Kono M	第一内科
13	Mol Med 2010; 16: 216-221	Alpha-galactosidase A-Tat fusion enhances storage reduction in hearts and kidneys of Fabry mice.	Higuchi K	第一内科
14	Heart 2010; 96: 773-778	Coronary endothelial dysfunction is associated with a reduction in coronary artery compliance and an increase in wall shear stress	Takumi T	第一内科
15	Int J Cardiol 2010; 145: e23-25	Peripartum cardiomyopathy in a patient with Graves' disease.	Kajiya T	第一内科
16	J Cardiol Cases 2010; 1: 154-157	Catheter ablation of persistent atrial fibrillation solely guided by complex fractionated atrial electrograms in a patient with persistent left superior vena cava	Iriki Y	第一内科
17	J Cardiovasc Ultrasound 2010; 18: 37-42	Preliminary clinical experience with Waon therapy in Korea: Safety and effect	Sohn IS	第一内科
18	Cardiovasc Intervent Ther 2010; 25: 29-39	Incidence and outcome of surgical procedures after sirolimus-eluting stent implantation: a report from the j-Cypher registry	Kimura T	第一内科
19	Cardiovasc Drugs Ther 2010; 24: 77-83	The PACIFIC (Prevention of Atherothrombotic Incidents Following Ischemic Coronary attack) Registry: Rationale and design of 2-year study in patients initially hospitalized with acute coronary syndrome in Japan	Miyauchi K	第一内科
20	Circulation 2010; 122: 42-51	Sirolimus-eluting stent versus balloon angioplasty for sirolimus-eluting stent restenosis: Insights from the j-Cypher Registry	Abe M	第一内科

(様式第11)

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
21	Circ J 2010; 74: 870-875	Impact of drug alteration to maintain rhythm control in paroxysmal atrial fibrillation. - Subanalysis from J-RHYTHM study-	Endo A	第一内科
22	Am J Cardiol 2010; 106: 701-706	Echocardiographic predictors for persistent functional mitral regurgitation after aortic valve replacement in patients with aortic valve	Matsumura Y	第一内科
23	J Cell Physiol 2010; 225: 251-255	B-type natriuretic peptide and extracellular matrix protein interactions in human cardiac	Huntley BK	第一内科
24	Science 2010; 329: 454-457	Sfrp5 is an anti-inflammatory adipokine that modulates metabolic dysfunction in obesity.	Ouchi N	第一内科
25	J Biol Chem 2010; 285: 36060-36069	Insulin-like 6 is induced by muscle injury and functions as a regenerative factor.	Zeng L	第一内科
26	Circ J 2010; 74: 779-785	Standard-dose statin therapy provides incremental clinical benefits in normocholesterolemic diabetic patients	Kojima S	第一内科
27	J Atheroscler Thromb (in press)	Loss of Clusterin Limits Atherosclerosis in Apolipoprotein E-deficient Mice via Reduced Expression of Egr-1 and TNF- α	Hamada N	第一内科
28	Clinical Chemistry (in press)	Human proBNP1-108 Is Processed in the Circulation of Normal Humans: Relationship to Corin in the Heart, Kidney, and Circulation.	Ichiki T	第一内科
29	Circ J (in press)	Acute and Chronic Effects of Smoking on Arterial Stiffness.	Kubozono T	第一内科
30	J Cardiol (in press)	Improvement of autonomic nervous activity by Waon therapy in patients with chronic heart failure	Kuwahata S	第一内科
31	Circ J (in press) (1,2: equally contributed)	Effect of Waon therapy on oxidative stress in chronic heart failure.	Fujita S	第一内科
32	Mol Biol Rep (in press)	Sequencing and characterization of the porcine alpha-galactosidase A gene: towards the generation of a porcine model for Fabry disease	Yoshimitsu M	第一内科
33	J Cardiol 2011; (in press)	Identification of novel mutations in the alpha-galactosidase A gene in patients with Fabry disease: Pitfalls of mutation analyses in patients with low alpha-galactosidase A activity.	Yoshimitsu M	第一内科
34	J Atheroscler Thromb (in press)	Relationship between bilirubin concentration, coronary endothelial function, and inflammatory stress in overweight patients	Yoshino S	第一内科
35	JACC Cardiovascular Imaging (in press)	Noninvasive Evaluation of Coronary Reperfusion by 64 - slice Computed Tomography in Patients With ST-elevation Acute Myocardial Infarction	Yamashita M	第一内科
36	Cytometry: Part A (in press)	Reevaluation of quantitative flow cytometric analysis for TLR2 on monocytes using F(ab') ₂ fragments of monoclonal antibodies	Oba R	第一内科
37	Hypertension (in press)	A Novel Atrial Natriuretic Peptide Based Therapeutic In Experimental Angiotensin II Mediated Acute Hypertension.	McKie PM	第一内科
38	Hypertension (in press)	The Aging Heart, Myocardial Fibrosis, and Its Relationship to Circulating C-Type Natriuretic Peptide.	Sangaralingham SJ	第一内科
39	Circulation Journal 2010;	循環器病の診断と治療に関するガイドライン	嘉川亜希子	第一内科
40	日本内分泌学会雑誌 2010; 86: 67-69	内視鏡単独ではない手術による先端巨大症の手術成績と急性期治療効果	藤尾信吾	第一内科
41	ACTH RELATED PEPTIDES 20 (in press)	視床下部・下垂体疾患患者のGHRP-2負荷, CRH負荷, インスリン低血糖試験におけるACTH, コルチゾール反応の乖離について	木村 崇	第一内科
42	糖尿病 2011; (in press)	糖尿病セルフケアに関する自己効力感尺度作成の試み	赤尾綾子	第一内科
43	Hepatol Res 40(6):557-565 2010.	Peginterferon-alpha-2b plus ribavirin therapy in patients with chronic hepatitis C as assessed by a multi-institutional questionnaire in Japan.	Ide T	消化器疾患・生活習慣病学 (消化器内科)

(様式第11)

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
44	Gastroenterology 138(7):2487-2498 2010.	Thrombocytopenia Exacerbates Cholestasis-Induced Liver Fibrosis in Mice	Kodama K	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)
45	超音波医学 37(6):651-653 2010.	ペースメーカーチェック時の心エコー検査で偶然診断された左室憩室の1例	東福勝徳	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)
46	炎症性腸疾患327-329 2010.	IX-2 粘膜上皮再生治療への可能性	坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)
47	日本心臓病学会誌 5(3):223-227 2010.	原発性シェーグレン症候群に二次性肺高血圧症を合併し治療困難であった1例	網屋俊	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)
48	Neutrophils: Lifespan, Functions and Roles in Disease 375-386 2010.	Chaper 16, Neutrophil-derived defensin in ulcerative colitis.	Sakiyama T	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)
49	J Gastroenterol Hepatol. Suppl1:65-71 2011.	Changing etiologies and outcomes of acute liver failure: A perspective from Japan.	Oketani M	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)
50	日本内科学会雑誌 100(3):686-691 2011.	第38回内科学の展望 難治性内科疾患の克服に向けて 10. 劇症肝炎の現状とde novo B型肝炎	坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)
51	日本内科学会雑誌 100(3):700-706 2011.	Aセッション 日本内科学会生涯教育講演会 2. 生活習慣病としての肝臓病	坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)
52	Neurologia medico-chirurgica 50(8):668-674,	Familial Moyamoya Disease Associated with Graves' Disease in a Mother and Daughter -Two Case	Takashima H.	神経内科
53	J Neuroimmune Pharmacol 5(3):310-325, 2010	Neuroimmunity of HTLV-I Infection	Matsuura E.	神経内科
54	PLoS Pathogen 5(12):e1000682, 2009	High expression of CD244 and SAP regulated CD8 T cell responses of patients with HTLV-I associated neurologic disease.	Matsuura E.	神経内科
55	J Neuroimmune Pharmacol 6(3):354-61, 2011	Translocator Protein PET Imaging for Glial Activation in Multiple Sclerosis	Matsuura E.	神経内科
56	Acta Neurol Scand 124(2):104-108, 2011	Glial fibrillary acidic protein mutations in adult-onset Alexander disease: clinical features observed in 12 Japanese patients	Okamoto Y	神経内科
57	Hum Pathol. 42(4):558-67, 2011	Significance of dysadherin and E-cadherin expression in differentiated-type gastric carcinoma with submucosal invasion.	Takashima H.	神経内科
58	Cancer Science 101(11), 2010	Intra- and inter-laboratory variability in human T-cell leukemia virus type-1 proviral load quantification using real-time polymerase chain reaction assays: A multi-center study	Yamano Y.	神経内科
59	日本内科学会雑誌 99(2):340-342, 2010	MRIにて馬尾と頸髄神経根にガドリニウム(Gd)造影効果を認めたSjogren症候群に伴う感覚性運動失調型ニューロパチーの1例	稲森由恵	神経内科
60	感染症誌 83(6), 658-660, 2009	成人百日咳感染症が疑われ、Reye様症候群を呈した1例	池田賢一	神経内科
61	神経治療学 27(5):697-701, 2010	Methotrexate療法が奏功し、小腸カプセル内視鏡で経過を追えた里吉病の1例	徳永章子	神経内科
62	臨床神経学 51(1):38-42, 2011	超低体温下弓部大動脈人工血管置換術後に発症した進行性核上性麻痺類似症候群の1例	崎山 佑介	神経内科
63	臨床神経学 50:232-240, 2010	播種性骨髄癌(骨髄癌腫症)にともなう硬膜血管のび慢性腫瘍塞栓によって硬膜肥厚を生じた1例—臨床病理学的検討—	丸田恭子	神経内科
64	Brain Injury 24(10):1202-1213, 2010	Effects of intensive repetition of a new facilitation technique on motor functional recovery of the hemiplegic upper limb and hand.	Kazumi KAWAHIRA	リハビリテーション科
65	The International Journal of Neuroscience 120(9):617-624, 2010	Addition of an anabolic steroid to strength training promotes muscle strength in the non-paretic lower limb of post-stroke hemiplegia	Megumi Shimodozor	リハビリテーション科

(様式第11)

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
66	The International Journal of Neuroscience 120(5):372-80, 2010	The angiotensin II type 1 receptor antagonist olmesartan preserves cerebral blood flow and cerebrovascular reserve capacity, and accelerates rehabilitative outcomes in hypertensive patients with a history of stroke	Shuji Matsumoto	リハビリテーション科
67	International Journal of Biometeorology 54(4): 465-72, 2010	Beneficial effects of footbaths in controlling spasticity after stroke.	Shuji Mastumoto	リハビリテーション科
68	The International Journal of Neuroscience 120(5): 344-51, 2010	Examining procedural consolidation with visuomotor learning in the lower limb	Michiko Arima	リハビリテーション科
69	The International Journal of Neuroscience 120(5):355-60, 2010	Salivary secretion and occlusal force in patients with unilateral cerebral stroke.	Tetsuo Kawasaki	リハビリテーション科
70	Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 48(3): 188-191, 2011	促通反復療法	下堂 蘭恵	リハビリテーション科
71	日本温泉気候物理医学会誌 73 (4): 248-254, 2010	前腕浴が片麻痺上肢機能と痙縮に与える影響	衛藤誠二	リハビリテーション科
72	Japanese Journal of rehabilitation Medicine 48 (3), 170-174, 2011	シンポジウム 磁気刺激のリハビリテーションへの応用 脳卒中片麻痺患者の運動誘発電位と治療	衛藤誠二	リハビリテーション科
73	Japanese Journal of rehabilitation Medicine 47(12): 848-855, 2010	臨床神経生理学とリハビリテーション 誘発電位F波を用いたリハビリテーションの研究	松元秀次	リハビリテーション科
74	臨床リハビリテーション 19 (12) : 1203-1206, 2010	右中大脳動脈領域の脳梗塞により強制把握を呈した症例に対するfMRIによる検討	有馬美智子	リハビリテーション科
75	The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 47 (11): 755-762, 2010	今日の先端科学を明日のリハビリテーションへ	川平和美	リハビリテーション科
76	温泉科学60: 251-259, 2010	温泉と健康のエビデンスを求めて 温泉のリハビリテーションへの応用	川平和美	リハビリテーション科
77	日本温泉気候物理医学会誌 73 (2): 122-128, 2010	静注糖負荷による糖処理能力の定量的評価と入浴の影響	田中 信行	リハビリテーション科
78	第26回日本義肢装具学会雑誌 Vol.26 (special issue): 186, 2010	短下肢装具を用いた脳卒中片麻痺患者の有効な歩行について(第2報)	上間智博	リハビリテーション科
79	Psychiatry Clin Neurosci. 2011; 65(1): 105-8	Adult-type metachromatic leukodystrophy with compound heterozygous ARSA mutations: a case report and phenotypic comparison with a previously reported case.	Hayashi T	神経科精神科
80	Neurosci Res. 2011; 69(3): 196-202	Comprehensive analysis of the genes responsible for neuroacanthocytosis in mood disorder and schizophrenia.	Shimo H	神経科精神科
81	九州精神医学 56(2): 83-87, 2010	Posterior Cortial Atrophy (PCA)が認められた認知症の1例	高取由紀子	神経科精神科
82	Schizophrenia Frontier 2010;11(2):58-61	治療関係が困難であった妄想型統合失調症の一症例	瀬戸下 玄郎	神経科精神科
83	精神科 2010 : 17 (1) : 86-95	「発作殺人」に至った症例に関する考察	赤崎安昭	神経科精神科
84	精神科 2010 : 17 (3) : 314-318	起訴前精神鑑定を担当する医師の中立性について	楠本 朗	神経科精神科
85	臨床精神医学 2010 : 39 : 347-352	精神科診断の問題点—フォーカシングの観点から—	川池陽一	神経科精神科
86	精神科 2010 : 17 (4) : 418-423	裁判員制度における鑑定人への「尋問」に対する提言	赤崎安昭	神経科精神科
87	J Clin Endocrinol Metab 2010;95(8):4043-7	Mutation and gene copy number analyses of six pituitary transcription factor genes in 71 patients with combined pituitary hormone deficiency: identification of a single patient with LHX4 deletion.	Hazeki D.	小児科
88	J Pediatr. 2010;156(5):786-791	A severe form of Kawasaki disease presenting with only fever and cervical lymphadenopathy at	Nomura Y.	小児科

(様式第11)

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
89	Int Arch Allergy Immunol. 2010;153(1):102-106.	An elevated value on drug-induced lymphocyte stimulation test for immunoglobulin is an immunological abnormality of Kawasaki disease.	Nomura Y.	小児科
90	Pediatr Transplantation 14(8) 980-985 2010	Successful bone marrow transplantation for children with aplastic anemia based on a best-available evidence strategy.	Okamoto Y.	小児科
91	Microb Immunol 2010 : 54(6):320-329	Characterization of typical and atypical enteroaggregative Escherichia coli in Kagoshima, Japan: biofilm formation and acid resistance.	Tokuda K	小児科
92	J Occup Health. 2011;53(2):84-92.	Benzene induces cytotoxicity without metabolic activation.	Nishikawa T	小児科
93	感染症誌 84:714~720, 2010	関東地方のある高校における麻疹集団発生事例-感染拡大防止策とワクチン効果に関する疫学的検討-	徳田 浩一	小児科
94	日本小児科学会雑誌 115(1):138-142, 2011	小児科臨床実習における学生の担当患児数と学生による実習評価との関連	野村裕一	小児科
95	日本小児血液学会雑誌 25(1):31-35, 2011	中心静脈カテーテル関連化膿性血栓性静脈炎、化膿性肺塞栓症を合併した骨髄異形成症候群の女児例.	児玉祐一	小児科
96	ANTICANCER RESEARCH 2010 30:5175-5180	Nuclear Expression of 14-3-3 Sigma Is Related to Prognosis in Patients with Esophageal Squamous Cell Carcinoma	HIROSHI OKUMURA	第一外科
97	Langenbecks Arch Surg 2010 395:341-346	Clinical course and outcome after esophagectomy with three-field lymphadenectomy in esophageal cancer	Shoji Natsugoe	第一外科
98	ANTICANCER RESEARCH 2010 30:2453-2458	Prognostic Impact of CD133 Expression in Gastric Carcinoma	Sumiya Ishigami	第一外科
99	Cancer Immunol Immunother 2010 59:389-395	Prognostic value of CD208-positive cell infiltration in gastric cancer	Sumiya Ishigami	第一外科
100	Reprinted from Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2010 16-1:1-3	From Uniformed Treatment to Individualized Treatment for Superficial Esophageal Cancer-What Is Potentially a New Approach?	Shoji Natsugoe	第一外科
101	cancers 2010 2:20-31	Number of Axillary Lymph Node Metastases Determined by Preoperative Ultrasound is Related to Related to Prognosis in Patients with Breast	Yuko Kijima	第一外科
102	Surgery Today 2010 40:569-573	Asymptomatic Somatostatinoma of the Pancreatic Head:Report of a Case	Hideo Arima	第一外科
103	Surg Today. 40(6):549-554, 2010	Use of continuous retrograde gaseous oxygen persufflation for myocardial protection during open heart surgery	Arata K	第二外科
104	臨床外科. 65 (3) : 417-419, 2010	開腹歴のない絞扼性イレウスの検討	北菌 巖	第二外科
105	Journal Neurosurg Spine. 12 : 243-248, 2010	Accuracy and pitfalls of multidetector-row computed tomography in detecting spinal dural arteriovenous fistulas	Arita K	脳神経外科
106	Hiroshima J Med Sci. 59 : 21-25, 2010	Development of a freeware for analysis of neuromagnetic epileptic discharges	Arita K	脳神経外科
107	Neurol Med Chir(Tokyo) 50 : 367-372, 2010	Efficacy and safety of key hole craniotomy for the evacuation of spontaneous cerebellar	Tokimura H	脳神経外科
108	Eur J Radiol. 73 : 532-537, 2010	Glioblastoma treated with postoperative radio-chemotherapy: Prognostic value of apparent diffusion coefficient at MR imaging	Hanaya R	脳神経外科
109	Epilepsy Res. 90 : 121-131, 2010	Gradient magnetic-field topography reflecting cortical activities of neocortical epilepsy	Hanaya R	脳神経外科
110	Brain Res. 1328 : 171-180, 2010	Hippocampal cell loss and propagation of abnormal discharges accompanied with the expression of tonic convulsion in the spontaneously epileptic	Hanaya R	脳神経外科
111	Eur J Endocrinol. 163 : 531-539, 2010	Relationship between cytokeratin staining patterns and clinico-pathological features in	Yuriz B	脳神経外科
112	J Neurochem. 113 : 965-977, 2010	The cyclooxygenase site, but not the peroxidase site of cyclooxygenase-2 is required for neurotoxicity in hypoxic and ischemic injury	Nagayama T	脳神経外科
113	Anesth Analg. 110 : 888-894, 2010	The effects of the phosphodiesterase inhibitor olprinone on global cerebral ischemia	Nagayama T	脳神経外科

(様式第11)

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
114	J Neurosurg. 112:1232-1234, 2010	Use of a guide wire system to insert guiding catheters	Nagayama T	脳神経外科
115	脳神経外科ジャーナル 19:296-303, 2010	視床下部過誤腫の病態と治療	有田和徳	脳神経外科
116	日本脊髄外科研究会機関誌 24:203-207, 2010	いわゆる「MRI時代」における腰部椎間板造影の必要性について	森 正如	脳神経外科
117	Neurol Med Chir(Tokyo) 50:928-930, 2010	Acute epidural hematoma in a patient with Glanzmann's thrombasthenia: A case report	Yamahata H	脳神経外科
118	Neurol Med Chir(Tokyo) 50:1084-1087, 2010	Aneurysm on the cortical Branch (P4 segment) of the posterior cerebral artery -case report-	Yamahata H	脳神経外科
119	Neurol Med Chir(Tokyo) 50:62-66, 2010	Delayed radiation necrosis 7 years after Gamma Knife surgery for arteriovenous malformation	Oyoshi T	脳神経外科
120	Neurol Med Chir(Tokyo) 50:588-591, 2010	Germinoma with syncytiotrophoblastic giant cells arising in the corpus callosum -case report-	Yonezawa H	脳神経外科
121	Neurol Med Chir(Tokyo) 50:232-236, 2010	Metastatic Pineal Tumors Treated by Neuroendoscopic Surgery -Two Case Reports-	Hanada T	脳神経外科
122	Neurol Med Chir(Tokyo) 50:1023-1026, 2010	Prolactin-producing pituitary adenoma with abundant spherical amyloid deposition masquerading as extensive calcification	Yuriz B	脳神経外科
123	Neurol Med Chir(Tokyo) 50:390-392, 2010	Rapid spontaneous resolution of neurological signs and cerebral herniation caused by intracerebral hemorrhage -case report-	Yamahata H	脳神経外科
124	Bone Marrow Transplant 45:602-604, 2010	Unexpectedly high AUC levels in a child who received intravenous busulfan before stem cell transplantation	Higashi M	脳神経外科
125	脳神経外科速報 20:210-214, 2010	椎骨動脈合流部の窓形成に伴う動脈瘤の4症例	田中俊一	脳神経外科
126	脳神経外科 38:149-155, 2010	小児の第四脳室に発生した脈絡叢乳頭腫の3例	藤尾信吾	脳神経外科
127	ホルモンと臨床 57:777-785, 2010	治療に難渋した成長ホルモン産生腺腫	有田和徳	脳神経外科
128	無症候性脳外科疾患の治療戦略 メディカルレビュー 108-114, 2010	ラトケ嚢胞の治療	有田和徳	脳神経外科
129	脳神経検査のグノーティ・セアウトンシナジー 172-176, 2010	メチオニンPETの落とし穴	平野宏文	脳神経外科
130	J Clin Invest 120(9):3255-3266	Neurons derived from transplanted neural stem cells restore disrupted neuronal circuitry in a mouse model of spinal cord injury.	Abematsu M	整形外科
131	Neurosurgery 66(6):1174-1180	Magnetic resonance angiography for vertebral artery evaluation in rheumatoid arthritis	Zenmyo M	整形外科
132	Spine 35(11):1109-1115	High mobility group box 1 is upregulated after spinal cord injury and is associated with neuronal cell apoptosis.	Kawabata H	整形外科
133	J Clin Neurosci 17(2):272-273	Ependymal cyst in the conus medullaris.	Nagano S	整形外科
134	Int J Neurosci 120(9):625-629	Intradural neurenteric cyst-two case reports of surgical treatment.	Zenmyo M	整形外科
135	Int J Neurosci 120(10):676-679	Intramedullary subependymoma of the cervical spinal cord: a case report with immunohistochemical study.	Zenmyo M	整形外科
136	Int J Neurosci 120(11):735-737	Pedicle subtraction osteotomy for adult tethered cord syndrome with lumbar canal stenosis: report of two cases.	Kawamura I	整形外科
137	J Biol Chem 285(11):8395-8407	GADD45 α enhances Coll10a1 transcription via the MTK1/MKK3/6/p38 axis and activation of C/EBP α -TAD4 in terminally differentiating chondrocytes.	Tsuchimochi K	整形外科

(様式第11)

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
138	Pathol Res Pract 207(4):225-231	Senescence of chondrocytes in aging articular cartilage: GADD45□ mediates p21 expression in association with C/EBP□ in senescence-accelerated mice.	Shimada H	整形外科
139	Mol Cancer 9:Art.No.5	Smoothed as a new therapeutic target for human osteosarcoma.	Hirotsu M	整形外科
140	Oncol Rep 23(3):677-684	The knock-down of overexpressed EZH2 and BMI-1 does not prevent osteosarcoma growth.	Sasaki H	整形外科
141	Diagn Pathol 5:69	Gadd45□ expression in chondrosarcoma: a pilot study for diagnostic and biological implications in histological grading.	Zenmyo M	整形外科
142	J Orthop Sci 15(1):144-147	Mazabraud's syndrome with solitary myxoma and monostotic fibrous dysplasia.	Arishima Y	整形外科
143	J. Dermatol. 37(2):185-187	Cutaneous Mycobacterium intracellulare infection in a bone marrow transplantation recipient.	Saruwatari H	皮膚科
144	Int. J. Oncol. 36(5):1193-1200	The role of thymidine phosphorylase in the induction of early growth response protein-1 and thrombospondin-1 by 5-fluorouracil in human	Matsushita S	皮膚科
145	Exp. Therape. Med. 1:569-574	Advanced malignant melanoma responds to Prunus mume Sibe. Et Zucc(Ume) extract: Case report and	Matsushita S	皮膚科
146	Biochem. Biophys. Res. Commun. 397(2):350-354	ER signaling is activated to protect human HaCaT keratinocytes from ER stress induced by environmental doses of UVB.	Mera K	皮膚科
147	J. Dermatol. 37(6):562-564	Purpuric drug eruption with leukocytoclastic vasculitis due to gefitinib.	Uchimiya H	皮膚科
148	J. Dermatol. 37(7):666-670	Metastatic cutaneous squamous cell carcinoma treated successfully with surgery, radiotherapy and S-1/cisplatin chemotherapy.	Matsushita S	皮膚科
149	J. Dermatol. 37(9):854-856	Striate palmoplantar keratoderma.	Kawai K	皮膚科
150	J. Cancer. Res. Ther. 6(3):404-406	Malignant melanoma with nodal involvement in a 17-year-old female.	Matsushita S	皮膚科
151	J. Dermatol. 38(1):104-105	Increased glucose uptake by seborrheic keratosis detected by positron emission tomography.	Ibusuki A	皮膚科
152	西日本皮膚科 72(2):129-131	BCG接種後にみられた結核疹の1例	坂口郁代	皮膚科
153	西日本皮膚科 72(3):213-215	熱傷瘢痕部に生じた基底細胞癌の1例	吉福明日香	皮膚科
154	日本皮膚科学会雑誌 120(12):2367-2378	皮膚科セミナー(第67回) 皮膚病理学エッセンシャルズ 悪性リンパ腫の病理像 診断と鑑別診断	河井一浩	皮膚科
155	日本皮膚科学会雑誌 120(13):2653-2654	皮膚悪性リンパ腫の診断と治療 皮膚悪性リンパ腫の診断と治療における診療ガイドライン	河井一浩	皮膚科
156	British Journal of Cancer 102:883-891.2010	miR-145 and miR-133a function as tumour suppressors and directly regulate FSCNI expression in bladder cancer	Chiyomaru T	泌尿器科
157	International Journal of Molecular Medicine 26:241-247.2010	CpG hypermethylation of human four-and-a-half LIM domains 1 contributes to migration and invasion activity of human bladder cancer	Matsumoto M	泌尿器科
158	International Journal of Oncology 37:1379-1388.2010	CpG hypermethylation of cellular retinol-binding protein 1 contributes to cell proliferation and migration in bladder cancer	Toki K	泌尿器科
159	Urologic Oncology 14:2010	Functional role of LASP1 in cell viability and its regulation by microRNAs in bladder cancer	Chiyomaru T	泌尿器科
160	Urologic Oncology 9:2011	MiR-133a induces apoptosis through direct regulation of GSTP1 in bladder cancer cell lines.	Uchida Y	泌尿器科
161	Int J Cancer 128:541-550.2011	Secreted frizzled-related protein-5 is epigenetically downregulated and functions as a tumor suppressor in kidney cancer.	Kawakami K	泌尿器科
162	Prostate 25:2011	SWAP70, actin-binding protein, function as an oncogene targeting tumor-suppressive miR-145 in prostate cancer.	Chiyomaru T	泌尿器科

(様式第11)

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
163	Cancer Science 102 : 522-529. 2011	MiR-96 and miR-183 detection in urine serve as potential tumor markers of urothelial carcinoma: correlation with stage and grade, and comparison with urinary cytology.	Yamada Y	泌尿器科
164	日本化学療法学会雑誌 58 (3) : 248-252	複雑性尿路感染症患者分離菌の薬剤感受性(2006、2007年)	山根隆史	泌尿器科
165	西日本泌尿器科 72 (2) : 71-74	後腹膜に発生したCastleman病の1例	坂口大	泌尿器科
166	西日本泌尿器科 72 (12) : 693-696	TS-1 [®] が有効であった膀胱原発印環細胞癌の1例	水間浩平	泌尿器科
167	西日本泌尿器科 73 (2) : 70-74	TIN療法を施行した難治性精巣腫瘍の1例	米森雅也	泌尿器科
168	Blood. 2010 Apr 22;115(16):3398-406.	alphaB-crystallin regulation of angiogenesis by modulation of VEGF.	Kase S	眼科
169	Acta Ophthalmol. 2010 Jun;88(4):e107-14.	Predictable signs of benign course of polypoidal choroidal vasculopathy: based upon the long-term observation of non-treated eyes.	Okubo A	眼科
170	Retina. 2010 Jun;30(6):856-64.	Vitrectomy for exudative age-related macular degeneration with vitreous hemorrhage.	Sakamoto T	眼科
171	J Immunol. 2010 May 1;184(9):4819-26.	B cell-derived vascular endothelial growth factor a promotes lymphangiogenesis and high endothelial venule expansion in lymph nodes.	Shrestha B	眼科
172	Jpn J Ophthalmol. 2010 Sep;54(5):504-5.	Aniridia associated with aphakia and secondary glaucoma.	Terasaki H	眼科
173	J Glaucoma. 2010;19(3):188-190.	Steroid- induced glaucoma in children with acute lymphoblastic leukemia: A possible complication.	Yamashita T	眼科
174	あたらしい眼科 27(3) : 391-394(2010.03)	眼内レンズ脱臼の原因と臨床所見.	田中最高	眼科
175	Br J Ophthalmol. 2011 Mar;95(3):419-23.	Ocular surface molecule after transconjunctival vitrectomy.	Fujita A	眼科
176	Am J Pathol. 2010 Nov;177(5):2268-77.	Stromal cell derived factor-1 is essential for photoreceptor cell protection in retinal	Otsuka H	眼科
177	Retina. 2011 Feb;31(2):222-8.	Hyalocytes: essential cells of the vitreous cavity in vitreoretinal pathophysiology?	Sakamoto T	眼科
178	Auris Nasus Larynx 2010;37(6):713-719	A useful procedure for observing the cervical esophagus via the hypopharynx.	Nagano H	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科
179	Auris Nasus Larynx 2010;37(2):195-198	Association of a globus sensation with esophageal diseases.	Nagano H	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科
180	Laryngoscope 2010;120(4)844-848	Effect of vascular endothelial growth factor on nasal vascular permeability.	Matsune S	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科
181	Auris Nasus Larynx 2010;38(3):319-324	The role of vascular endothelial growth factor in pediatric otitis media with effusion.	Kurono Y	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科
182	Ann Nucl Med. 2010 Apr;24(3):157-61. Epub 2010 Mar 5.	Associations between liver 18F fluoro-2-deoxy-D-glucose accumulation and various clinical parameters in a Japanese population: influence of the metabolic syndrome.	K Kamimura	放射線科
183	Oncology Letters.1;905- 911, 2010.	Comparison of survival rates between patients treated with transcatheter arterial chemoembolization and hepatic resection for solitary hepatocellular carcinoma.	Y Baba	放射線科
184	Jpn J Radiol. 28;618- 622, 2010.	Epithelial-myoepithelial carcinoma of the parotid gland:correlation of dynamic magnetic resonance imaging, 18F-fluorodeoxyglucose-positron emission tomography, and pathological findings	K Takumi	放射線科
185	Cardiovasc Intervent Radiol. Feb;34 Suppl 2:S154-456, 2011. Epub 2010 Nov 12.	Embolization of hepatic arteriovenous shunt with absolute ethanol in a patient with hepatocellular Carcinoma.	T Senokuchi	放射線科

(様式第11)

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
186	Eur J Nucl Med Mol Imaging. 37;2011-2020, 2010.	FDG PET/CT and diffusion-weighted imaging for breast cancer: prognostic value of maximum standardized uptake values and apparent diffusion coefficient values of the primary lesion	Masatoyo Nakajo	放射線科
187	European Journal of Radiology Extra. 77;e13-e15, 2011.	Multicystic biliary hamartoma mimicking intrahepatic bile duct cancer.	T Senokuchi	放射線科
188	Pancreas. 40(2):308-310, 2011.	Which indexes are appropriate among those derived from selective arterial calcium stimulation and venous sampling (ASVS) for diagnosing pancreatic insulinomas? Evaluation using receiver operating characteristic analyses.	Y Baba	放射線科
189	J Obstet Gynaecol Res; 36(2):352-6	Difference in non-weight-bearing effects on bone mineral density between trunk and peripheral fat mass in women with polycystic ovary syndrome.	Yanazume S	産婦人科
190	鹿児島産科婦人科学会雑誌 18-19合併巻; 19-22, 2011	腹腔鏡下内臓症性嚢胞摘出後わずか1年で対側卵巣に進行癌が発生した症例	福田美香	産婦人科
191	鹿児島産科婦人科学会雑誌 18-19合併巻; 28-32, 2011	再発卵巣癌・卵管癌に対するリポソーム化ドキシソルビン単剤投与に関する検討	堀 新平	産婦人科
192	鹿児島産科婦人科学会雑誌 18-19合併巻; 33-36, 2011	Two cases of spontaneously ruptured myomectomy scar at mid-trimester	Yuji Orita	産婦人科
193	LiSA 7(5), 450-453, 2010 May	【術後合併症を起こした患者の麻酔】冠動脈バイパス術後の再開胸 循環管理と並行して、早期の診断・治療	森山孝宏	侵襲制御学分野・麻酔全身管理センター(麻酔)
194	Cardiovascular Anesthesia 14(1), 143-145, 2010 May	Trends in β blocker therapy '09 Topics: Adult Cardiac Anesthesia 成人心臓手術に関する話題 周術期における β 遮断薬の役割	尾前毅	侵襲制御学分野・麻酔全身管理センター(麻酔)
195	Journal of Anesthesia 24(4), 511-517, 2010 May	Can a NICO monitor substitute for thermodilution to measure cardiac output in patients with coexisting tricuspid regurgitation?	Imakire N	侵襲制御学分野・麻酔全身管理センター(麻酔)
196	日本臨床麻酔学会誌 30(4), 649-654, 2010 July	術後管理におけるPCAの上手な使い方 術後鎮痛治療法の変遷 特にPCAの必要性について	上村裕一	侵襲制御学分野・麻酔全身管理センター(麻酔)
197	循環制御 31(1), 14-21, 2010 July	【循環制御のモニター・治療の進歩】周術期における β 遮断薬の意義と可能性	尾前毅	侵襲制御学分野・麻酔全身管理センター(麻酔)
198	日本臨床麻酔学会誌 30(5), 771-778, 2010 Sep.	周術期不整脈の管理と治療 術後心房細動を制御するために	尾前毅	侵襲制御学分野・麻酔全身管理センター(麻酔)
199	LiSA 17(9), 876-879, 2010 Sep.	【麻酔歴に問題がある患者のインフォームドコンセントと麻酔】気道確保困難の前歴がある患者DAMを制する者は・・・麻酔を制す?! 開口の程度から挿管用デバイスを選択	増田美奈	侵襲制御学分野・麻酔全身管理センター(麻酔科)
200	日本集中治療医学会雑誌 17(4), 491-498, 2010 Oct.	Systemic inflammatory response syndrome (SIRS) 症例におけるE-セレクチンと臓器障害に関する臨床的検討	黒木千晴	侵襲制御学分野・麻酔全身管理センター(麻酔)
201	The Journal of Physiology 588(21), 4117-4129, 2010 Nov	Orexin neurons are indispensable for stress-induced thermogenesis in mice	Sunanaga J	侵襲制御学分野・麻酔全身管理センター(麻酔)
202	日本集中治療医学会雑誌 18(1), 95-99, 2011 Jan.	小児の抜管後上気管狭窄に対するヘルメット型マスクを用いた非侵襲的陽圧換気療法の経験	菊池忠	侵襲制御学分野・麻酔全身管理センター(麻酔)
203	Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia 25(1), 72-77, 2011 Feb.	Effects of a Novel Benzodiazepine Derivative, JM-1232(-), on Human Gastroepiploic Artery In Vitro.	Moriyama T	侵襲制御学分野・麻酔全身管理センター(麻酔)
204	The Journal of Neurosciences 31(11), 3981-3989, 2011 Mar.	Complement receptor 2 is expressed in neural progenitor cells and regulates adult hippocampal neurogenesis.	Moriyama M	侵襲制御学分野・麻酔全身管理センター(麻酔)
205	Nihon Rinsho. 2011 Jan; 69 Suppl 1:103-8.	The regulation of food intake and energy balance: orexigenic mechanism	Ogiso K	心身医療科

(様式第11)

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
206	Exp Clin Endocrinol Diabetes. 2011 Jun 10.	Increase in Energy Intake Leads to a Decrease in Obestatin in Restricting-Type of Anorexia Nervosa.	Uehara M	心身医療科
207	Mol Genet Metab. 2011 Mar;102(3):349-55.	Induction of PDK4 in the heart muscle of JVS mice, an animal model of systemic carnitine deficiency, does not appear to reduce glucose utilization by the heart.	Ushikai M	心身医療科
208	Int J Mol Med. 2010 Dec;26(6):771-8.	The role of ghrelin in energy homeostasis and its potential clinical relevance (Review).	Cheng KC	心身医療科
209	Peptides. 2011 Jan;32(1):150-3.	Plasma nesfatin-1 concentrations in restricting-type anorexia nervosa.	Ogiso K	心身医療科
210	Neuroreport. 2010 Oct 27;21(15):1008-11.	Centrally administered nesfatin-1 inhibits feeding behaviour and gastroduodenal motility in mice.	Atsuchi K	心身医療科
211	Int J Pept. 2010;2010. pii: 963501.	Update on ghrelin.	Fetissov SO	心身医療科
212	Int J Pept. 2010;2010. pii: 305192.	Ghrelin, des-acyl ghrelin, and obestatin: regulatory roles on the gastrointestinal motility.	Fujimiya M	心身医療科
213	Expert Opin Biol Ther. 2010 Oct;10(10):1405-14.	Leptin gene therapy in the fight against diabetes.	Wang Y	心身医療科
214	Exp Clin Endocrinol Diabetes. 2011 Mar;119(3):163-6.	Effects of exercise on the levels of peptide YY and ghrelin.	Li JB	心身医療科
215	Peptides. 2010 Sep;31(9):1706-10.	Inui A. Regulatory effects of Y4 receptor agonist (BVD-74D) on food intake.	Li JB	心身医療科
216	Horm Metab Res. 2010 Jul;42(8):595-8.	Changes in acyl ghrelin, des-acyl ghrelin, and ratio of acyl ghrelin to total ghrelin with short-term refeeding in female inpatients with restricting-type anorexia nervosa.	Koyama KI	心身医療科
217	Horm Metab Res. 2010 Jun;42(7):535-8.	Centrally administered neuromedin S inhibits feeding behavior and gastroduodenal motility in mice.	Atsuchi K	心身医療科
218	Psychoneuroendocrinology. 2010 Sep;35(8):1178-86.	Parathyroid hormone-related protein has an anorexigenic activity via activation of hypothalamic urocortins 2 and 3.	Asakawa A	心身医療科
219	J Neurosci Res. 2010 Jul;88(9):1890-7.	Chronic foot-shock stress potentiates the influx of bone marrow-derived microglia into hippocampus.	Brevet M	心身医療科
220	Clin Nutr. 2010 Apr;29(2):227-34.	Appetite and gastrointestinal motility: role of ghrelin-family peptides.	Perboni S	心身医療科
221	J Oral Maxillofac Surg 68 (9): 2248 - 2257, 2010	Surgical procedure for secondary correction of unilateral cleft lip nose deformity—Clinical and 3D observations of pre- and postoperative nasal	Nakamura N	口腔顎顔面外科
222	Oncology Reports 23 : 1205 - 1212, 2010	UV max of FDG-PET correlates with the effects of neoadjuvant chemoradiotherapy for oral squamous carcinoma.	Miyawaki A	口腔顎顔面外科
223	Int J Oncol 36 : 817 - 822 , 2010	Upregulation of Notch pathway molecules in oral squamous cell carcinoma.	Hijioka H	口腔顎顔面外科
224	日口外誌 56(11): 618 - 627, 2010	口唇口蓋裂一次治療の一貫治療（この10年の新展開）NAM・口唇外鼻一体移動による低侵襲初回口唇外鼻形成の取り組み	中村典史	口腔顎顔面外科
225	小児口外誌, 19(2): 1 - 7, 2010	変治唇裂の二次修正手術	中村典史	口腔顎顔面外科

(様式第11)

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
226	小児科臨床 増刊号 63 : 1472 - 1476, 2010.	コメディカルの役割-トリアージとスキルミックスの促進 2) 臨床心理士との連携-	緒方祐子	口腔顎顔面外科
227	Journal of Dental Research 2011 90(1) 665-	Influence of Experimental Esophageal Acidification on Sleep Bruxism:A randomized	Ohmure H	矯正歯科
228	European Journal of Orthodontics 2011 33(2) 126-131	Differences between sliding mechanics with implant anchorage and straight-pull headgear and intermaxillary elastics in adults with bimaxillary protrusion.	Miyawaki S	矯正歯科
229	Journal of Computer Assisted Tomography 2010 32(2) 233-241	Clinical Significance of Magnetization Transfer Contrast Imaging for Edematous Changes in Masticatory Muscle.	Nagayama K	矯正歯科
230	九州矯正歯科学会雑誌 2011 6(1) 42-47	下顎切歯根尖部に水平埋伏した犬歯の開窓・牽引を行った一治験例	上村裕希	矯正歯科
231	小児歯科学雑誌 2010: 48 (1) :29-39.	日本人小児の永久歯先天性欠如に関する疫学調査	山崎要一	小児歯科
232	Journal of Craniomandibular Practice 2010:28 (4) : 232-237.	Development of Labial-Closure Strength in Preschool Children.	Atsushi Fukami	小児歯科
233	J Ceram Soc Jp n 2010: 118 (6): 508-511.	Effect of autoclave treatment on bonding strength of dental zirconia ceramics to resin cements.	Sato H	小児歯科
234	The Angle Orthodontist 2011, 81(1):77-82.	Pharyngeal Airway in Children with Prognathism and Normal Occlusion.	Tomonori Iwasaki	小児歯科
235	American Journal of Dentofacial Orthodontics and Orthopedics, 139; e135-145, 2011.	Evaluation of upper airway obstruction in Class II children using fluid-mechanical simulation.	Tomonori Iwasaki	小児歯科
236	J Clin Periodontol. 2010, 37(4) 374-381	Regenerative effect of basic fibroblast growth factor on periodontal healing in two-wall intrabony defects in dogs	Y Shirakata	歯周病科
237	Oral Dis. 2010, 16(2) 702-706	The association of periodontal disease with oral malodour in a Japanese population.	H Takeuchi	歯周病科
238	Biochem Biophys ResCommun, 2010, 394	Involvement of the endocannabinoid system in periodontal healing.	S Kozono	歯周病科
239	Dental Materials Journal 2010 29巻2号177-187	Effects of metal primers on bonding of adhesive resin cement to noble alloys for porcelain fusing	Nobuhiro Okuya	冠・ブリッジ科
240	日本接着歯学会 2010 28巻3号 139-144	非貴金属・貴金属両用プライマーが非貴金属合金と補修用常温重合レジンとの接着に及ぼす影響	南 弘之	冠・ブリッジ科
241	Journal of Prosthodontics Research 54 (2010):65-69	Relationship between Symptoms of Dryness and Moisture Levels in Patients with Maxillofacial	Murakami M	義歯補綴科
242	Acta Anaesthesiologica Scandinavica 2010;54:122	Awake nasal intubation using a combination of the EndoFlex tube and fiberoptic bronchoscopy in patients with difficult airways	梶山加綱	歯科麻酔科
243	臨床麻酔 2010; 34:251-252	ジルチアゼムの静脈炎発生に重炭酸リンゲル液の関与が疑われた3症例	梶山加綱	歯科麻酔科
244	British Journal Anaesthesia, 2010;6, 3, Out	The safety of the paediatric cuffed tracheal tube during palatoplasty,	梶山加綱	歯科麻酔科
245	The Angle Orthodontist 2010;81:77-82	Relationship between lower pharyngeal airway and prognathism in children	齊藤陽子	歯科麻酔科
246	Archives of Oral Biology 2010;56:102-107	Head motion may help mouth opening in children	齊藤陽子	歯科麻酔科
247	International Journal of Oral Maxillofacial Surgery 2010;68:2248-2257	Surgical technique for secondary correction of unilateral cleft lip-nose deformity: clinical and 3-dimensional observation of preoperative and postoperative nasal forms	大河内孝子	歯科麻酔科
248	Cancer Sci., 101, 920-926. 2010	Major vault protein forms complexes with hypoxia-inducible factor (HIF)-1alpha and reduces HIF-1alpha level in ACHN human renal adenocarcinoma cells.	Iwashita K	薬剤部
249	Int J Antimicrob Agents, 36, 179-181, 2010	Higher linezolid exposure and higher frequency of thrombocytopenia in patients with renal	Matsumoto K	薬剤部

(様式第11)

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
250	J. Infect. Chemother., 16, 193-199, 2010	Determination of teicoplanin trough concentration target and appropriate total dose during the first 3 days: a retrospective study in patients with MRSA infections.	Matsumoto K	薬剤部
251	Genes Cells, 15, 595-606, 2010	Characterization of the testis-specific promoter region in the human pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide (PACAP) gene.	Tominaga A	薬剤部
252	J Nat Prod. 2010 Sep 24;73(9):1512-8.	Cytotoxic isomalabaricane derivatives and a monocyclic triterpene glycoside from the sponge <i>Rhabdastrella globostellata</i> .	Hirashima M	薬剤部
253	Environ Health Perspect, 118, 1292-1298, 2010	p53 Plays an important role in cell fate determination after exposure to microcystin-LR.	Takumi S	薬剤部
254	J Mol Neurosci., 42, 341- 348, 2010	Alternative splicing of the pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide (PACAP) receptor contributes to function of PACAP-27.	Ushiyama M	薬剤部
255	J. Health Sci., 56, 712- 716, 2010	Safety Evaluation of Black Rice Vinegar (Kurosu) from a Jar on Food-drug Interaction: 30-day Ingestion Study on Expressions of Drug Metabolism Enzymes and Transporters in Rats	Shibayama Y	薬剤部
256	Neurosci Lett., 473, 102- 106, 2010	Synaptic formation in subsets of glutamatergic terminals in the mouse hippocampal formation is affected by a deficiency in the neural cell recognition molecule NB-3.	Sakurai K	薬剤部
257	Mol Med Report., 3, 1031- 1034, 2010	Establishment and characterization of irinotecan-resistant human non-small cell lung cancer A549 cells.	Ikeda R	薬剤部
258	Int J Oncol., 38, 513- 519, 2011	Isolation and characterization of gemcitabine-resistant human non-small cell lung cancer A549 cells.	Ikeda R	薬剤部
259	Cancer Sci., 102, 540- 548, 2011	Wnt-5a signaling is correlated with infiltrative activity in human glioma by inducing cellular migration and MMP-2.	Kamino M	薬剤部
260	Experimental and Therapeutic Medicine, 1, 853-857, 2010	Gemcitabine and Paclitaxel Repress the Production of Vascular Endothelial Growth Factor Induced by Deferoxamine in Human Non-small Cell Lung Cancer A549 cells	Ikeda, R.	薬剤部
261	Oncology Letters, 2, 91- 94, 2011	Isolation and Characterization of Erlotinib-resistant in Human Non-small Cell Lung Cancer	Ikeda, R.	薬剤部
262	日本外科感染症学会雑誌, 7, 373-376, 2010	腎機能障害を有する術後MRSA感染症患者2例におけるリネゾリドの体内動態	竹下鮎美	薬剤部
263	医療薬学, 36, 817-825, 2010	実務実習事前学習における「薬局製剤実習」の実施とその評価	富重恵利紗	薬剤部
264	Vasc Health Risk Manag 6:135-144, 2010	The diagnostic value of endothelial function as a potential sensor of fatigue in health.	Hashiguchi	検査部
265	Thromb Res 125:e310-e316, 2010	Association between reduced ADAMTS13 and diabetic nephropathy.	Hashiguchi	検査部
266	J Immunol 184:4819-4826, 2010	B cell-derived vascular endothelial growth factor A promotes lymphangiogenesis and high endothelial venule expansion in lymph nodes.	Hashiguchi	検査部
267	Int J Immunopathol Pharmacol 23:105-119, 2010	1,5-Anhydroglucitol attenuates cytokine release and protects mice with type 2 diabetes from inflammatory reactions.	Hashiguchi	検査部
268	Lab Invest 90(6):853-66. 2	High-mobility group box-1 protein promotes granulomatous nephritis in adenine-induced nephropathy.	Oyama	検査部
269	日本予防医学学会雑誌 5:17- 22, 2010	介護福祉学生に対する職務継続のための健康教育の評価	橋口照人	検査部

(様式第11)

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
270	日本集中治療医学会雑誌 18:95-99、2011	小児の抜管後上気道狭窄に対するヘルメット型マスクを用いた 非侵襲的陽圧換気療法の経験	菊池忠	集中治療部
271	Journal of anesthesia 25:42-9、2011	Protocol-based noninvasive positive pressure ventilation for acute respiratory failure.	菊池忠	集中治療部
272	pediatr Hematol Oncol. 2011 Apr;28(3):244- 8	Acute respiratory distress syndrome as an initial presentation of hemophagocytic lymphohistiocytosis after induction therapy for	垣花泰之	集中治療部

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 熊本 一郎
管理担当者氏名	薬剤部 武田 泰生 看護部長 向窪 世知子 臨床技術部長 福島 昇 総務課長 安武 博隆

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		総務課 各診療部門科 病歴管理室 薬剤部	(1) 電子化後は 1 患者 1 記録となり ID 番号で分類 (2) エックス線フィルム of 管理保存 ① CT、MRI、RI のエックス線フィルムについては放射線部で管理し保存している。 ② その他のエックス線フィルムは、各診療部門科で管理し保存している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医務課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医務課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医務課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項各号及び第九の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医務課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医務課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医務課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医務課	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療環境安全部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医務課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医務課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医務課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床技術部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床技術部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床技術部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床技術部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 熊本 一郎
閲覧担当者氏名	総務課長 安武 博隆
閲覧の求めに応じる場所	総務課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	82.9 %	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数	12,425	人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	12,622	人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	397	人
	D：初診の患者の数	18,088	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： （１）安全管理に関する基本的考え方 （２）組織に関する基本的事項 （３）職員研修に関する基本方針 （４）医療事故等発生時の対応に関する基本方針 （５）医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容： （１）医療の安全管理体制の確保に関する事 （２）医療に関する安全管理指針に関する事 （３）医療事故等の防止対策の検討及び推進に関する事 （４）医療の安全管理のための教育及び研修に関する事 （５）その他医療の安全管理等に関する事	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 8 回
・ 研修の主な内容： 医療安全管理全般に係る研修あるいは、医療機器・医薬品・放射線治療・院内救急蘇生等のテーマ別研修を病院全職員にそれぞれ実施し、その他に新規採用者・中途採用者向けの研修を実施した。	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： （１）医療環境の変化に対応するため、「医療安全管理マニュアル」を毎年度改訂 （２）医療安全管理強化月間（５月，１１月）を設定	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（２名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（５名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任（２）名 兼任（１０）名 ・ 活動の主な内容： （１）医療安全を確保するための改善方策に関する事 （２）医療安全に係る教育・研修事業の企画及び運営に関する事 （３）インシデントに関する診療録や看護記録等への記載状況の確認・指導に関する事 （４）患者や家族への説明等の対応状況の確認・指導に関する事 （５）医療安全管理委員会の円滑な運営に関する事	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none">(1) 趣旨(2) 院内感染対策の基本指針(3) 組織体制(4) 職員の教育及び研修(5) 報告に関する基本方針(6) 対応に関する基本方針(7) その他（上記(1)～(6)以外の特記事項)	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容： 【感染症対策委員会】 院内感染制御と患者の安全確保を主な目的として、院内における感染症発生状況を把握し、感染対策に関する事項（原因分析や改善策等）の審議、諸施策の策定を行う。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年10回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">(1) 多剤耐性菌の伝播防止(2) インフルエンザ対策(3) 医療関連感染予防の新しい考え方(4) 肺炎球菌による敗血症(5) HIV/AIDS診療に関する講習	
⑦ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">(1) 報告・周知を迅速に行うための体制の確立。 (重大な院内感染の発生時に対策を審議する場としてICTスタッフ会議を新たに追加)(2) マニュアル・院内感染対策指針の改訂を感染対策の変遷に応じて行う。	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 麻薬処方オーダーリングに係る運用方法について (麻薬取扱い・管理も含めて) <3/18, 3/25></p> <p>(2) 薬の処方から投与まで (内服処方せん の書き方、指示内容等) <5/27></p> <p>(3) 持参薬支援管理システム その運用法について <6/7></p> <p>(4) 新たなハイリスク薬の適正使用 <9/27, 10/5></p> <p>(5) (仮) 化学療法とレジメンオーダー <11月予定></p>	
② 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (①・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：今年度中に見直しを図り、全面改訂を行うべく準備中である</p> <p>(1) 医薬品の採用について</p> <p>(2) 医薬品の購入について・・・震災時、緊急時の対応 (入荷困難等) の対応を図る</p> <p>(3) 調剤室における医薬品の管理について…調剤内規を新しい処方箋の書き方に変更 (準備中)</p> <p>(4) 病棟における医薬品の管理について…病棟の管理状況確認方法を改訂 (準備中)</p> <p>(5) 外来患者への医薬品使用について…後発品変更時の対応の統一化 (準備中)</p> <p>(6) 入院患者への医薬品使用について…抗がん剤や持参薬の取扱い追加 (準備中)</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (①・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 医薬品安全使用管理加算の算定を行ってきたが、さらに内容の充実を図るべく情報の理解を深め、情報共有を図り、処方せんチェックの徹底を行っている</p> <p>(2) 医薬品情報提供を医薬品の添付文書に関わる情報だけでなく、各部署から別々に院内へ案内していた注意事項や剤形変更などを統一して「DI news」で院内へ提供するようにした。</p> <p>(3) 入院時の持参薬を確認し、内容によっては注意喚起等を行うために薬剤師が全面的に持参薬を確認し、その内容は持参薬支援管理システムに反映させることとした (今年度中に全病棟へ拡大予定)</p>	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	④・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容： 医療機器の適切な取扱い方法、取扱い上での注意点、日常点検方法、インシデント事例の紹介とその対応などの内容で実施している。また、部署により使用する機器や使用状況が異なるため、現場での研修を随時行っている。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 (④・無)・ 保守点検の主な内容： 医療機器安全管理担当者会議で年度の初めに策定した計画にそって部門毎に保守点検を実施している。病棟などで使用する医療機器については、MEセンターで貸出点検、定期点検、故障修理を実施し、医療機器管理ソフトによる管理を行っている。また、月毎の点検状況・点検件数などを定期的に報告し、保守点検の実施状況の確認を行っている。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (④・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">(1) 医療機器情報担当者が医薬品医療機器総合機構などから発信される医療機器安全情報を院内の各部署のリスクマネージャに情報配信している。外部から発信される安全情報の中で、院内で該当する機器については使用状況などを調査して職員への注意喚起を行っている。(2) 医療機器管理システムを導入し、システムの中に医療機器の添付文書、マニュアル、安全情報を取り込んで全職員が閲覧できるようにしている。今後、この医療機器管理システムを使用して情報の共有化と医療機器管理の一元化を行っていく予定である。(3) 臨床工学部門が病棟ラウンドを行い、人工呼吸器などの設定や使用状況を確認している。	

